4 調整板（別売品）の施工方法

●調整板は、KP-L120用（KP-SL1201･KP-SL1202･KP-SL1203）をご使用ください。

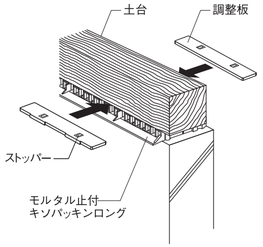
●調整板は、厚さ1mmと2mmと3mmがございます。
調整板を使用する箇所で隙間の高さが違う場合は、隙間の高さに合わせて1枚、もしくは（2枚以内で）重ねて使用してください。
※調整板の重ね枚数は2枚以内を厳守してください。

●調整板は、**2枚で1セット（水平レベル）ですので、必ず偶数枚で使用**してください。

●調整板の取り付けは、**モルタル止付キソパッキンロングの両サイド（基礎の内と外）から、モルタル止付キソパッキンロングの上（土台との隙間）に差し込み**、手で入らない場合は、ハンマーなどで軽く叩き込んで**土台の下に完全に挿入**してください。

※調整板を奥まで差し込んでモルタル止付キソパッキンロングの表面のストッパー嵌合部（溝部）へストッパーを嵌合させセットしてください。

※調整板が必要な場合は、最寄りの支店･営業所へお問い合わせください。



5 防風透湿マット（JVM-KPL42･別売品）の施工方法

●防風透湿マットは、Jotoキソパッキング工法用付属部材として、寒冷地の床下給水配管箇所に使用します。

●防風透湿マットは、外周基礎より1m以内の給水配管が床下･壁部に貫通する箇所がある場合に使用します。
※特に、立上がり配管が基礎と接近し、保温断熱材の被覆が十分にできない場合は注意してください。

●防風透湿マットは、モルタル止付キソパッキンロングのアンカーホールの長さに合わせて切断し、アンカーホールに充填して使用します。

●防風透湿マットは、モルタル止付キソパッキンロングの間の給水配管より、1m以内に充填敷込みしてください。
※当該配管のある最寄り箇所以外は、むやみに充填敷込みはしないよう注意してください。

●防風透湿マットは、所定の箇所以外に使用すると床下結露の原因となる場合がありますのでご注意ください。

●外周基礎立上がりより1m以内内部に入ったゾーンは、地熱の影響により氷温以下（+4℃～0℃）にはほとんど達しないこと（外気温−30℃の施工物件で検証済）から通常保温で結構です。

※防風透湿マットが必要な場合は、最寄りの支店･営業所へお問い合わせください。

【敷き込み完了後の確認事項】

土台の敷き込みが完了した時点で以下のことを確認してください。

チェックシート ※確認･完了のチェックを入れてください。

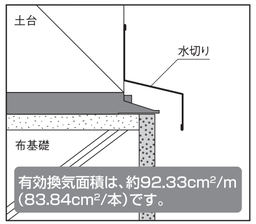
		確 認	完 了
①	モルタル止付キソパッキンロングは、隙間なく敷き込まれていますか? （本製品同士の継手など、取り合い部に隙間が生じる場合、隙間は8mm以下となるようにしてください。）		

※土台敷設後にモルタル止付キソパッキンロングと土台との間に隙間が生じる場合は、基礎天端の不陸が原因と考えられますので、調整板（別売品）を差し込み、土台の事後の不陸発生防止に備えてください。

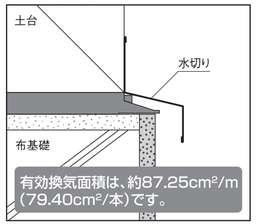
! 有効換気面積についてのご注意

水切り腰掛けを使用した際、有効換気面積が変わりますので、ご注意ください。

●腰掛け未使用時



●腰掛け使用時



本施工説明書の示す使用取り扱い条件を逸脱した場合は、本製品に関する性能･品質および構造体の安全性についての保証はできません。

城東テクノ株式会社
ユニークな建材で長持ち住まいをささえます。

本製品に関するお問い合わせは
ダイヤル［J］0120-106011
受付時間（土･日･祝を除く）9:00～12:00/13:00～16:00

城東テクノホームページ
Joto
https://www.joto.com

Information ※Joto製品は、PL法に基づく製品保証体制を取っております。
※製品の仕様は予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。

第2版 2203SK

Joto

要保存

施工説明書

モルタル止付キソパッキンロング

KP-L120MS

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
正しく据え付けていただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書を**よくお読みいただき施工してください。**

安全上のご注意

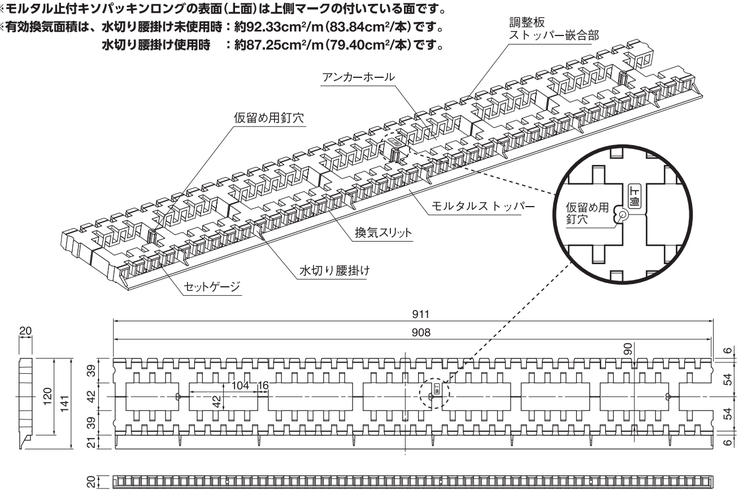
お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

取り扱い

土台404（204）･406（206）･105角･120角･135角用にご使用いただけます。

製品寸法図（単位:mm）

※モルタル止付キソパッキンロングの表面（上面）は上側マークの付いている面です。
※有効換気面積は、水切り腰掛け未使用時：約92.33cm²/m（83.84cm²/本）です。
水切り腰掛け使用時　：約87.25cm²/m（79.40cm²/本）です。

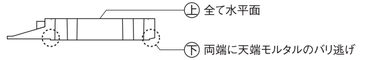


梱包内容 ●本施工説明書1通 ●モルタル止付キソパッキンロング20本

城東テクノ株式会社

取り扱いと注意事項

① 本製品に対して、不必要な打撃や加工を加えないでください。
② 本製品に加工を施す場合は、長さ調整の切断のみとします。
③ 本製品は、防鼠機能付きですので、**防鼠材の取り付けは不要です。**
④ 本製品は、**基礎の内外周すべてに隙間なく敷き込んでください。**※
本製品同士の継手など、取り合い部に隙間が生じる場合、隙間は8mm以下となるようにしてください。内周はキソパッキンロングを敷き込んでも構いません。
⑤ 本製品は、**必ず、「上側」と明記してある方を上側（表向き）**にして使用してください。



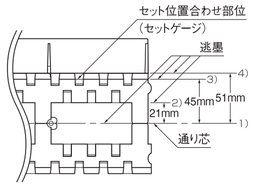
⑥ アンカーボルトがモルタル止付キソパッキンロングのアンカーホールと合わない場合は、カットしてアンカーボルトがあたらないように敷き込んでください。
⑦ 土台敷設後、モルタル止付キソパッキンロングと土台との間に**隙間が生じる箇所には、必ず別売品の調整板を使用してください。（土台の事後の不陸発生防止）**
※基礎の外周のみモルタル止付キソパッキンロングを敷き込み、内周はキソパッキンを施工ルール（敷き込み位置）に従って施工していただくこともできます。

1 施工ルール（敷き込み位置）

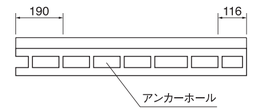
基礎の内外周すべてに隙間なく敷き込んでください。
※本製品同士の継手など、取り合い部に隙間が生じる場合、隙間は8mm以下となるようにしてください。
※モルタル止付キソパッキンロングの敷き込みは、**基礎全周に敷き込むか、内周はキソパッキンロングを敷き込んでください。**
基礎の外周をモルタル止付キソパッキンロング、内周を別タイプのキソパッキン（KP-シリーズ）を敷き込む場合、内周部は4つの**敷き込みルール**（アンカーボルト部分、荷重が集中してかかる位置、土台の継手位置、枠組壁工法は間隔0.5Pのスタッド下部、在来軸組工法は3尺ピッチ）を厳守してください。

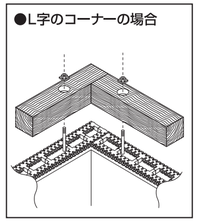
2 施工手順

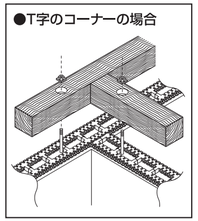
※枠組壁工法・在来軸組工法とも土台とモルタル止付キソパッキンロングの芯を一致させることが原則です。（標準納まり図参照）
① 1）～4）のいずれかの逃墨を打ちモルタル止付キソパッキンロングをセットしてください。
1）通り芯の逃墨を打ちモルタル止付キソパッキンロングを中心線に合わせる。
2）通り芯より21mmの逃墨を打ちモルタル止付キソパッキンロングのアンカーホールの内側に合わせる。
3）通り芯より45mmの逃墨を打ちモルタル止付キソパッキンロングのセットゲージに合わせる。
4）通り芯より51mmの逃墨を打ちモルタル止付キソパッキンロングの外側に合わせる。
② 基礎の外周に隙間なく敷き込んでください。**必ず、「上側」と明記してある方を上向き**にして使用してください。

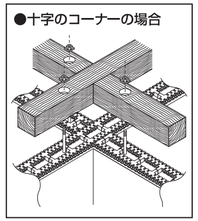


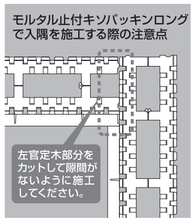
※敷き込む際、釘固定は必要ありませんが、コーナー部から敷き込み、最初のモルタル止付キソパッキンロングを市販のコンクリート釘で2箇所固定して基準を設け、続けて嵌合部を合わせながら釘固定を一体一箇所または、一定の枚数毎で固定（仮留め）をすると施工上、ずれることなく敷き込めます。
※コーナー部分で長さ調節が必要な場合は、モルタル止付キソパッキンロングをカットして敷き込んでください。ただし、**モルタル止付キソパッキンロングを端部より116mm以下または190mm以下にカットしたものを敷き込むことはできません。アンカーホールが1つ以上確保される長さでカットしてください。**











3 水切りの取り付け施工について

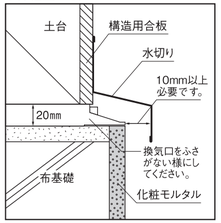
モルタル止付キソパッキンロングの敷き込み完了後、施工状態を確認し、次の要領に従って取り付けます。なお、水切りの取り付け位置は工法（枠組壁工法か在来軸組工法）によって違いますので注意して取り付けてください。

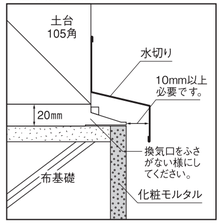
■一般水切りを取り付ける場合（標準）

一般水切りを取り付ける際には、以下の点にご注意ください。
（取り付け位置は、一体型の防鼠付水切りと同様です。）

① Jotoの水切り（WSF-40など）を使用する場合は、**モルタル止付キソパッキンロングの換気スリットを水切りの立ち上がり部で遮蔽しないよう、**水切りの取り付け位置を構造用合板または土台にレベルの墨出しを行ってから取り付けてください。
② **基礎立ち上り部の化粧モルタルがモルタル止付キソパッキンロングの換気スリットに被らないよう注意してください。**

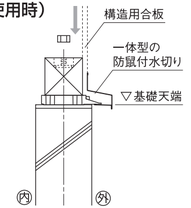
《基礎化粧モルタルの施工要領と水切りの納まり（芯々施工時）》



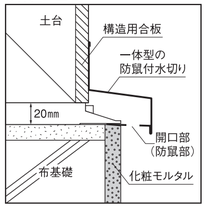


■一体型の防鼠付水切りの取り付け（準防火地域使用時）

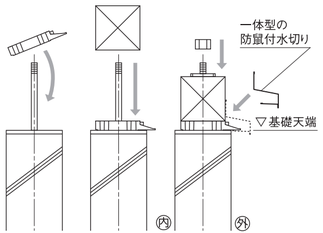
① **枠組壁工法の場合……**
土台と側根太を継ぐ**構造用合板の外側面**に取り付けます。
（一体型の防鼠付水切りの下端を布基礎の天端レベルに合わせてステンレス製の釘にて、間隔は約450mmを目安に留め付けてください。）

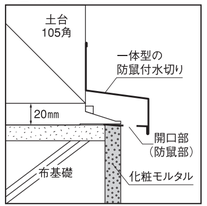


《一体型の防鼠付水切りの納まり（芯々施工時）》



② **在来軸組工法の場合…**
土台の外側に直接取り付けます。
（セットおよび留め付けは①同様）
※布基礎立ち上がり部の外面が土台の外面より10mm以上飛び出す場合には、一体型の防鼠付水切りの**取り付けは、外壁の下地材（構造用合板・木摺板等）の外面に取り付けてください。**





（基礎立ち上がり部の左官仕上材が一体型の防鼠付水切りの換気開口部に被らないよう注意してください。）

注意 Joto標準の一体型の防鼠付水切り以外の水切り（サイディング役物、板金工事にて別途用意する水切り）を使用する場合、工事管理者および施工者は、上記「基礎化粧モルタルの施工要領と水切りの納まり」図に従って**換気スリットの開口部を確保できる形状と寸法の確認をした後、**留め付けてください。

【水切りカバーおよび一体型の防鼠付水切りの施工後の確認事項】

チェックシート ※項目ごとの確認・完了のチェックを入れてください。

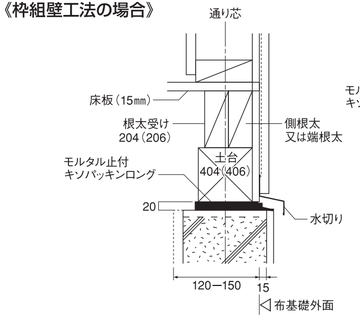
		確認	完了
①	一体型の防鼠付水切りおよびモルタル止付キソパッキンロングの換気開口部が確保されているか?		
②	水切り材が水平に保たれて取り付けられているか?		
③	標準タイプの水切り材では、水切り下端と基礎立ち上がり部の化粧モルタルとのスリット開口部が10mm以上確保されているか?		

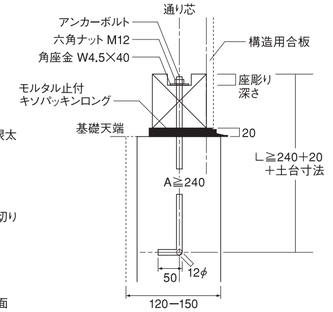
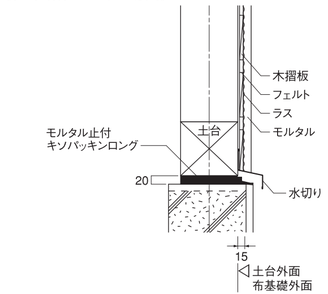
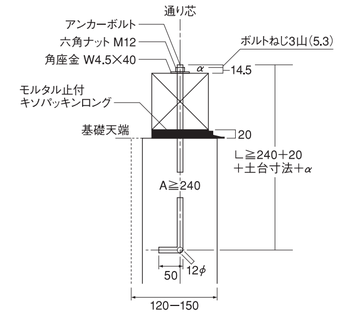
※以上の事項に不備が無い事を確認した後、次の工程へ進んでください。

【モルタル止付キソパッキンロングの標準納まり図】

※従来施工されている土台と基礎天端の間に敷き込まれている防湿シート等は不要です。
（換気開口部分を遮蔽する弊害となるので使用しないでください。）

《枠組壁工法の場合》





《在来軸組工法の場合》